

■白川静 古代漢字研究の第一人者。ライフワーク『字統』『字訓』『字通』三部作。一般から支持されるも、専門家からは批判。

しらかわしずか

韓国併合・・・1910＝ 福井市佐佳枝中町に生まれる。

明治天皇没・・・1912＝ 2歳：

大正政変・・・1913＝ 3歳：この年、財団法人立命館が設立される。

ロシア革命・・・1917＝ 7歳：福井市立順化尋常小学校に入学。

大正14年条約・・・1919＝ 9歳：

原敬首相暗殺1921＝11歳：

水平社結成・・・1922＝12歳：この年、大学令による立命館大学が開設される。

関東大震災・・・1923＝13歳：この年、専門学校令準拠だったため、立命館大学専門学部に移る。卒業し、姉の住む大阪に出る。

護憲三派圧勝1924＝14歳：「弁護士広瀬徳蔵の事務所に住み込み、成器商業夜間部に通う。仕事の合間に、『国訳漢文大成』など、広瀬の蔵書のの観し、『楚辞』や唐詩を暗誦して、漢籍の基礎を独学、

金融恐慌・・・1927＝17歳：この年、立命館専門学部に文学科を設置。病気療養のため、一時帰郷。

共産党事件・・・1928＝18歳：

海軍軍縮条約1930＝20歳：大阪府京阪商業学校第二本科を卒業。「教職と中国学を志すようになり、

満州事変・・・1931＝21歳：

国際連盟脱退1933＝23歳：この年、立命館は京大事件で辞職の教授らを招聘している。「立命館大学専門部文学科国漢学科入学。小泉蓼三(国文)、橋本循(漢文)に師事し、終生の師になる。

帝人疑獄事件1934＝24歳：文部省中等教育国語科免許を受ける。

芥川直木賞始1935＝25歳：倉橋勇蔵の勧めにより、専門学部三年に在学のまま、立命館中学教諭となる(漢文・国語担当)。

二二六事件・・・1936＝26歳：卒業。

日中戦争始・・・1937＝27歳：

この間、呉大激の「字説」「説文古箱補」、段玉裁「説文解字注」、王引之「経義述聞」、郭沫若「卜辞通纂」「两周金文辞大系考釈」などで、本格的な研究を進め、

日米開戦・・・1941＝31歳：立命館大学法文学部漢文学科に進み、

創価学会検挙1943＝33歳：卒業し、立命館大学予科教授、

年金・総武装1944＝34歳：専門学部教授となる。学徒勤労動員の付添として舞鶴第三海軍火薬廠と豊川海軍工廠に赴き、

敗戦・・・1945＝35歳：敗戦を迎え、

新憲法公布・・・1946＝36歳：この年、当用漢字表告示。

樞東裁判決・・・1948＝38歳：*新制立命館大学が設置され、文学部助教授となる。処女論文「卜辞の本質」、続いて「訓詁に於ける思惟の形式について」「殷の社会」を『立命館文学』に発表。

独立回復・・・1951＝41歳：

マデラ事件・・・1952＝42歳：角田文衛、梅田良忠らと古代学協会を設立。機関誌「古代学」を発行。

自衛隊発足・・・1954＝44歳：文学部教授となる。このころから台湾・中国の研究者との交流が始まる。

55年体制始・・・1955＝45歳：*『甲骨金文論叢』初集を、研究室より謄写版で発行。以後十集に及ぶ。大阪大学文学部講師となり、大学院で甲骨金文を講ずる。始まった(撲社の会)で西周金文の解説と注釈、また『説文』の講義を行う。

安保闘争・・・1960＝50歳：「稿本詩経研究(通論篇・解釈篇)」二冊、「興の研究」(「稿本詩経研究」別冊)を研究室より謄写版で発行。

全国総合計画1962＝52歳：「『興の研究』を京都大学に博士論文として提出、文学博士の学位を受ける。

東京文化財 1964＝54歳：「金文通釈」を白鶴美術館誌として刊行開始。以後、1984年まで五六輯を数える。

全典闘争・・・1969＝59歳：大学紛争の中、「わだつみ像」が破壊される。「説文新義」十五卷、別巻一を撲社の社友であった小野楠雄(五典書院)の手で季刊にて刊行開始(5年後完結)。

大阪万博・・・1970＝60歳：*初めての一般書『漢字』(岩波新書)、続いて『詩経』(中公新書)を刊行し、一般人のブームが始まる。

日中国交回復1972＝62歳：台北の故宮博物院に僕社の諸氏と同行し、調査。「孔子伝」(中公叢書)、『甲骨文の世界』(東洋文庫)、

石油ショック1973＝63歳：

田中角栄逮捕1976＝66歳：定年退職し、文学部特別任用教授となる。

成田衝突・・・1978＝68歳：雑誌『遊』に「遊字論」の連載を開始。「『漢字百話』(中公新書)、

革新大敗北・・・1979＝69歳：「遊字論」の連載を続ける。「『初階万葉論』(中央公論社)、『中国古代の文化』(講談社学術文庫)、

貿易摩擦問題1980＝70歳：『中国古代の民俗』(講談社学術文庫)と、次々と一般読者のために書き下ろし続けた。

・・・1981＝71歳：この年、常用漢字表告示。台湾の中央研究院主催の国際漢学会議に参加。立命館大学名誉教授となる。

中曽根内閣・・・1982＝72歳：中国藝文研究会を組織。

・・・1984＝74歳：*『字統』(平凡社)刊行し、毎日出版文化賞特別賞。

竹下登内閣・・・1987＝77歳：続いて、『字訓』(平凡社)を刊行、

ソ連崩壊・・・1991＝81歳：『字統』『字訓』等の文字研究により、菊池寛賞。

オムカシ事件・・・1995＝85歳：阪神・淡路大震災の年、「後期万葉論」(中央公論社)刊行。

・・・1996＝86歳：京都府文化特別功労賞。「字通」(平凡社)刊行し、ライフワークの三部作が完結し、朝日賞。

金融破綻・・・1997＝87歳：中国瀋陽での文字文化共同研究会に出席、基調講演を行う。「文字文化研究所所長、理事長となる。

・・・1998＝88歳：「詩経雅頌」(平凡社・東洋文庫)を刊行し「詩経」の全訳注完成。中国で甲骨・金文資料収集。文化功労者。

石原都知事・・・1999＝89歳：文字文化研究所で文字講話を始める。勲二等瑞宝章。平凡社より『白川静著作集』(全十二巻)の刊行開始(翌年完結)。

・・・2000＝90歳：前年『日本経済新聞』に連載した「私の履歴書」を収録した「回想九十年」(平凡社)刊行。井上靖文化賞。

小泉9.11テロ2001＝91歳：「別冊太陽白川静の世界」(平凡社)が刊行される。

小泉北朝鮮・・・2002＝92歳：平凡社より、「説文新義」を復刊した「著作集別巻第一期(全八巻)」、梅原猛との対談「呪の思想」刊行。

イラク戦争・・・2003＝93歳：小論・対談集「桂東雜記1」(平凡社)刊行(以後Vまで毎年刊行)。「常用字解」(平凡社)刊行。

・・・2004＝94歳：「金文通釈」「殷文札記」を復刊した「白川静著作集 別巻 第Ⅱ期」(平凡社)刊行。文化勲章。『文字講話』を2時間4回ペースで全20回行い、『白川静 文字講話』(全4巻)にまとめられたが、続編の希望が相次いだため、

小泉郵政選挙2005＝95歳：白川静記念東洋文字文化研究所開設。福井県立図書館の中に愛用品など関連資料を展示する展示する「白川文字学の室」が開設された。「新たに4回行ない、続編の著作校正を済ませ入院。

・・・2006＝96歳：まさに、生涯現役を全うし、多臓器不全により、没した。

松岡正剛「白川静 漢字の世界観」、略年譜(立命館大学白川静記念 東洋文字文化研究所ホームページ)、Wikipedia、